



川上直哉 [著]

FEBC 放送で、好評を博した 3.11 以降の宣教論！！

私の救い、私たちの希望

ボッシュ『宣教のパラダイム転換』を被災の地で読む

8月20日刊行予定

牧師カワカミ・ナオヤ、 現場から神学する！

「選択を迫り、その結果次第で、その人との関係を切るかもしれない」という「今までの伝道・宣教」とは違う何かを探さなければ。「人数が少ないこと」が問題なのか。むしろ「人数を求めること」が問題なのではないか。

主な目次

私の救い、私たちの希望 (第1回)
宮城石巻読書の集い
パラダイムを貫く共振

私の救い、私たちの希望 (第2回)
宮城石巻読書の集い
教会の外にいる人の言葉で、
福音を語りなおす

私の救い、私たちの希望 (第3回)
宮城石巻読書の集い
「神は、偏在する」。
東北で聖書を読むことの意味

私の救い、私たちの希望 (第4回)
宮城石巻読書の集い
なぜ私たちは宣教するのか、
礼拝に生きるのか

私の救い、私たちの希望 (第5回)
宮城石巻読書の集い
東北キリストンの成功
そして消滅の姿から

私の救い、私たちの希望 (第6回)
宮城石巻読書の集い
現場から聖書を読み、宣教を見つめる。

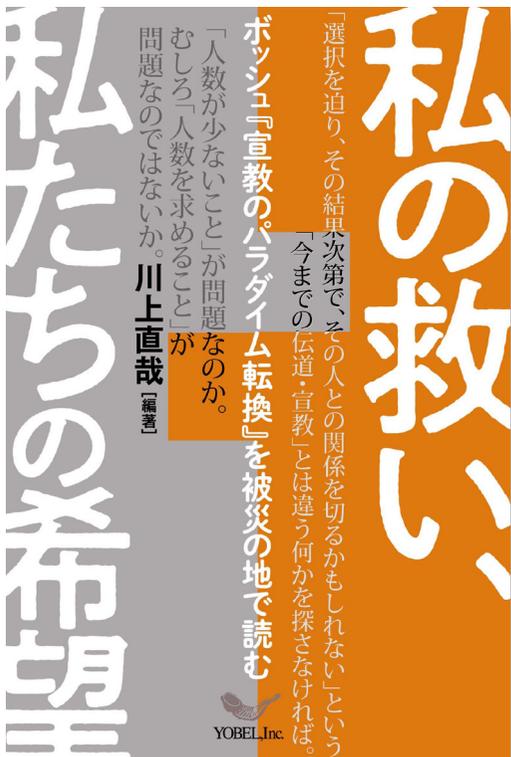
「東北ヘルプ」掲載記事から
釜石から——「街の牧師」として：
高橋夫妻インタビュー

「東北ヘルプ」掲載記事から
「街の牧師」の可能性
——釜石と熊本から

【書評再録】
P・T・フォーサイス 川上直哉 [訳著]
活けるキリスト
——『活けるキリスト』の現代的意味
不器用な人びと 大頭眞一氏

川上直哉 (かわかみ・なおや) 1973年、北海道に牧師の息子として生まれる。神学博士(立教大学)・牧師(日本基督教団正教師)。宮城刑務所教誨師、宮城県宗教法法人連絡協議会常任幹事、仙台白百合カトリック研究所客員研究員、東北学院大学非常勤講師、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク(NPO法人「東北ヘルプ」)代表、食品放射能計測プロジェクト運営委員長、世界食料デー仙台大会実行委員長。2018年4月～日本基督教団石巻栄光教会主任担任教師。(2024年7月31日現在)

主な著書『日本におけるフォーサイス受容の研究：神学の現代的課題の探究』(キリスト新聞社、2012)、『食卓から考える放射能のこと』(共著・いのちのことば社、2013)、『被災者支援と教会のミニストリー』(共著・いのちのことば社、2014)、『被ばく地フクシマに立って——現場から、世界から』(ヨベル、2015)、『ポスト・フクシマの神学とフォーサイスの贖罪論』(新教出版社、2015)、『震災と市民2支援とケア』(共著・東京大学出版会、2015)、『東日本大震災と〈復興〉の生活記録』(共著・六花出版、2017)、『被災後の日常から——歳時記で綴るメッセージ』(ヨベル、2018)、『東日本大震災と〈自立・支援〉の生活記録』(共著・六花出版、2020)、フォーサイス『聖なる父——コロナ時代の死と葬儀』(ヨベル、2020)、フォーサイス『活けるキリスト——「活けるキリスト」の現代的意味』(ヨベル、2022)、『東北キリストン探訪』(共著・教友社、2024)



四六判並製・264頁・定価1,980円

本体1,800円+税 ISBN978-4-911054-33-8 C0016